

## 夏の講演会・講習会、初のオンライン開催

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため夏の講演会・講習会を中止せざるをえませんでした。昨年度から、どのようにすれば夏の講演会・講習会を行うことができるのか検討を重ね、今年度オンライン開催という形で開催することができました。さまざまな方のご協力のもと、実施することができました。本当にありがとうございました。

今回参加してくださった方の感想から一部を紹介し、夏の講演会・講習会を振り返ります。

### 1日目 夏の講習会（8月19日）

#### 講座① 補聴器の特性とオーディオグラム

- デジタル補聴器（リニア増幅、ノンリニア増幅）2ccカプラ、イヤージュミレーターなど聞きなれないものがあり、理解しにくいところもありましたが勉強になります。本日の講座を読みかえし、理解を深めたいと思います。オーディオグラムの基本的な見方も知らなかったので、勉強になりました。補聴器や人工内耳についての知識も深まりました。



#### 講座② 人工内耳

- 聴能部として基礎的な知識から、細かい部分までを改めて知ることができ、とてもよかったです。聞こえの個人差が大きいこと、どのような配慮が必要なのか等が印象に残りました。今後の指導に役立てていきたいと思います。

#### 講座③ 補聴援助システム

- 授業でタッチスクリーンマイクを直接機器につないで活用してみたい。
- わからなかった人工内耳のことや補聴援助システムのことなどわかりやすくイラスト等で話を聞くことができました。

#### 講座④ ろう学校の自立活動の取り組み

- 自立活動で実際にしている取り組みについて、児童の実態も交えて説明してくださったので、わかりやすくイメージすることができました。また、とりくみ課題と丁寧に実践を整理されており、積み上げていくために、また子どもの成長を把握するためにとっても必要なことだと思います。参考にさせていただきます。

#### 講座⑤ 難聴学級の取り組み

- それぞれの学校の工夫や取り組みを知ることができました。特に難聴学級での取り組みはキャリア教育に繋がるものがあり、学ばせていただきました。

- ・初めて難聴学級の担任になり、何をどのように取り組めば良いのか分からず悩んでいました。ろう学校や難聴学級の様々な取り組みを拝見する事ができて、少しでも児童にあった自立活動を考えて行けそうです。ありがとうございました。

## 講座⑥ 各校の聴力検査室紹介・検査内容紹介

- ・「各校の聴力検査室紹介」オンライン開催の特色を活かした趣向がおもしろかったです。各学校の聴言室紹介も、普段なかなか見学できないところなので、どんな様子が見ることができて参考になりました。

感想の他にも、数多くのご意見、改善案をいただきました。  
次年度以降の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

## 2日目 夏の講演会・講習会（8月20日）

### AM 講演会

## 「neo 難聴への教育支援 —聾教育 40 年を振り返って、今—」

講師 愛媛大学教育学部 教授 立入 哉 先生

### 参加者の感想

- ・幅広い内容を熱意あふれる語りでお聞かせいただきました。必要なものを作り出す技がすごいと思います。QRコードも利用してみます。
- ・聴覚障害教育の歴史から、時代がかわっても、聞こえを利用した言語獲得と社会自立を目指す話を聞き、やはり基本は大事と改めて感じた。neo 難聴の實際をきかせていただいて、子どもの難聴や指導を考えるヒントとなった。
- ・普段から聴覚支援で指導していて気になることが聞けてよかったです。
- ・これまでの歴史をより身近に分かりやすくお話を聞くことができ、これからの教育のあり方を考える機会になりました。neo 難聴の理解をもっとする必要性を感じました。
- ・APDのお話でオーディオグラムだけでは把握しづらい方がいらっしゃるということで、再度見直して検討していかなければと思いました。
- ・neo 難聴、まだ研究中のことも含めて大変勉強になりました。資料も充実していて、ありがとうございます。
- ・歴史等のお話が良かったです。分かりやすく、お話をいただき、ありがとうございました。
- ・ろう教育の歴史など、あまり今まで気にしていなかったお話をきけてよかったです。聴力の障害ではなく聴覚処理の障害という話をきき、どこで子どもが困っているかを見極める力をつけていきたいと



思いました。

- 最近の聴覚障がいに関する知見をわかりやすくお話いただき、勉強になりました。さらに深めていきたいと感じました。
- 聴覚障害児教育の歴史についてのお話は、これまでに沢山の方々によって現在の教育に繋がっていることを知り大きな学びとなりました。普段耳にしない用語などもあり、言葉の意味を追いながら話を聞くことにはなりましたが、どんな風に聴こえているかなど理解が深まり、今回の講演を参考に様々な角度から子どもたちのサポートができればと思っています。



## PM 講習会

### 「言語指導における手話と日本語」

講師 奈良県立ろう学校元校長 廣中 嘉隆 先生

#### 参加者の感想

- 廣中先生に言語指導について改めてその位置づけを伝えてもらい、分かりやすかったです。その上で手話を学校の中でどう扱うべきか手話も取り入れて日本語を理解出来るようにしていくための手がかりについてもお話していただきました。目の前にいる子どもにとってどの方法が良いかしっかり考えたいです。
- 手話と日本語、第一言語、第二言語のお話を聞いて言語指導のあり方について「日本語」を指導するにあたり、教員も聴覚障害児に正しい日本語について研修する必要があると思いました。
- 先生の講座をお聞きして「話の内容理解」と「日本語を指導する」場合との違いが分かりました。
- 話し言葉しかない手話を、主たるコミュニケーションモードとする子どもたちが、助詞を適切に使えるようになるための指導については、なぜそのような間違いをするのかを理解することが必要なのだと感じた。
- 廣中先生の経験をお聞きできてよかったです。手話と日本語の互換性について具体的な例をもっとお聞きできればと思いました。
- 生徒には声を出して！と要求しているのに、教員側が音声をつけずに手話をしてみるということを今まで考えた事がなかったので、目から鱗が落ちました。両方を言語として操るということを考えてみたいと思いました。
- 日本語を指導することの難しさをより感じました。指導する私たちがしっかりの日本語について知識を深めていくことの大切さを改めて学ばせていただきました。
- 最後のまとめで、手話と日本語の二言語を持つ強みの話をされていたのが印象的でした。手話だから指導者が日本語を知らなくても指導ができるという訳でもないことも理解できました。
- 言語指導（日本語指導）が国語科だけでなく、全ての教科指導の中で意識する必要がある、もしくは言語指導をするスタンスで教科指導にも関わっていかなければいけないと感じながら話を聞きました。言語指導の切り口やヒントをいろいろ思い浮かべながら聞くことができました。



- これまで、言語指導に携わる機会がなく、ちょっと敷居の高さを感じていました。手話と日本語の関係性、言語を考える枠組み、ことばの階層など、これまで自己の経験でなんとなくわかっているつものことばかりでした。具現化された資料を見て、たくさんの気づきがありました。
- 言語指導、日本語、手話の関係性について学ぶことができました。各校で手話についてのルール、確認事項があるのかという問いかけは新鮮でした。学校（地域）特有の手話があることは知っていましたが、学校全体での確認事項は聞いたことがありませんでした。手話の大切さ、ろう学校の強みとして、もっと手話への意識を変えていく必要があると思いました。ありがとうございました。
- 手話と日本語の互換性、手話を知る、実践例を持ち寄る、日本語を知る・・・は職場ですぐにできることと思います。手話言語条例が制定されて手話講座が開かれています。実際の集まりは悪いです。私的な時間に学びに行く人も少ないです。何とかしなくてはと悩みます。
- 今手話を勉強している中で、日本語と手話の違いに少しずつ気づいてきましたが、今日改めて考えるきっかけとなりました。「手話だけ」「日本語だけ」と限定するのではなく、どちらも好きな子どもにすることを旨とした指導をしていけるようにしていきたいと思います。せっかくろう学校に赴任してきたので、まずは自分が「日本語」「手話」のしくみについて勉強していきたいと思います。
- 日本語で表せることは全て手話で表せるという言葉が頭に残っています。しかし、それを的確に伝えるためにはそれぞれの言語の特徴を知り、効果的に伝える技術を身に付ける必要があるというのは大変耳の痛いお言葉でした。聴覚特別支援学校で言語指導をする立場上、手話に対しても日本語に対しても敏感になり、わかりやすく伝える術を身につけていきたいと思いました。
- 日本語も手話もそれぞれが一つの言語として認めた上で子どもの実態に合わせて言語指導をしていく必要があることを改めて学びました。一方で社会では日本語が主流だと思うので、手話がベースの子どもの場合は社会に出た後のことを考えると、日本語が嫌いにならないようにする工夫は確かに必要だと思いました。

## 今後の予定

10月30日（土）～ 11月7日（日） 秋の講演会（オンライン開催）

講師 山本 晃 先生

（国立特別支援教育総合研究所 研究企画部総括研究員）

テーマ 「聴覚障害教育における現状と課題を踏まえた実践」

12月上旬 冬の学習会の案内、機関紙76号発行

（令和4年）

1月28日（金） 第3回代表委員会・専門研修会（Zoom）

1月29日（土）～ 2月6日（日）冬の学習会（オンライン開催）

講師 白澤 麻弓 先生

（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター障害者支援研究部 准教授）

テーマ 「聴覚障害のある児童・生徒のオンライン授業での支援方法について」

3月下旬 集録第22号発行、機関紙77号発行

近畿教育オーディオロジ—研究協議会事務局

〒540-0005

大阪府大阪市中央区上町1丁目19番31号

大阪府立中央聴覚支援学校内

事務局長 中咲 智香子

TEL：06-6761-1419

FAX：06-6762-1800

メール：t-nakasakic@e.osakamanabi.jp